

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591200100		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホーム ふれあいの家		
所在地	秋田県仙北市田沢湖卒田字荒町49-7		
自己評価作成日	令和5年7月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年9月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道46号線に面して当施設があります。最寄りの神代駅にも近く、交通の便には良い場所となっております。国道沿いではありますが、田園に囲まれ、自然の多い場所でもあり、利用者様にとっては馴染み深い環境となっております。皆様にはゆっくりとした時間の中で、穏やかに毎日を過ごして頂いております。また、ご家族様や地域の皆様との交流の場として、施設での様々な行事への参加を通して交流を深めて頂き、ご理解いただけるように努めておりますが、ここ数年はコロナ禍の為、感染予防の観点から面会を控えさせて頂いており、御家族には大変寂しい思いをさせておりますが、皆様の近況は電話やお便りにて対応させて頂いております。ご利用者の皆様に安心して頂ける様、健康を一番考え、医療との連帯を図り、状態の安定を目指して、「自分らしく 心豊かにくらす」をモットーに、これからも利用者様の支援をして参ります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が話しやすい環境づくりに努めていることから、職員は活発に発言し、出された意見や提案が就業環境の改善や利用者へのより良いケアに繋がっています。コロナ禍で制限の多い中でも外出の機会をつくったり、利用者が少しでも楽しい過ごし方ができるよう工夫をしながらサービスの提供に取り組んでおり、以前のような地域の方々との交流の再開が待たれます。直近の7月に近隣河川の水位上昇による避難指示に従って避難を経験したことは、今後の災害対策に活かされるものと思われれます。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が地域の中で安心して暮らして頂けるように、「自分らしく 心豊かに暮らす」を理念に掲げ、玄関や、施設内に提示、常に意識し、利用者の皆様を支援しております。	利用者の暮らしやすい環境づくりのために、職員は申し送り、連絡帳を活用して情報の共有化を図り、介護計画に反映させて理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ数年はコロナの流行、感染予防のために行う事が出来ていないが、敬老会や夏祭り等の行事は、地域の方々に参加して頂き、利用者様やご家族の皆様等とも交流を図っている。また、近隣住民とも部落などの行事に職員の方で参加させていただき、交流と信頼関係の構築に努めている。	コロナ禍でもあり、地域との積極的な交流活動ができない状況が続いていますが、駐車場の雪寄せや草刈り、訪問理容は近所の方が協力してくれています。保育園や小学校との交流も感染状況をみながら増えてくるものと思われれます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	施設行事等に参加して頂きながら、地域の方との交流を深め、その中で施設の紹介をしたり、認知症に関する相談を受けたり、情報、交流したりしながら認知症に関する理解を深めて頂く努力を続けたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況、行事・運営状況等の報告を行い、入居者様、ご家族、地域住民・行政等の皆様からご意見、ご希望を頂き、サービスの向上に努めている。ここ数年はコロナ感染防止・予防のために書面にて行っている。	書面上の開催が続いていますが、会議メンバーから意見を収集して議事録としてまとめています。職員は議事録を確認し、対面会議の際の内容も管理者が職員に伝えてサービスの向上に活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、福祉事務所、行政機関等、電話や訪問と共に施設の内容等を常に密に連絡できる体制を取れるよう、協力して頂いている。	利用者の対応を相談する等、各担当部署と緊密に連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、正しく理解、周知できるように努めている。施設においては、施錠は夜間以外にせず開放し、見守りを行っている。運営推進会議の中で、多方面の方々の意見を伺い、身体拘束適正化に取り込んでいく。	勉強会等で理解に努めている他、その時々 の事象について話し合い、身体拘束、虐待の ないケアに取り組んでいます。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等への参加の機会を設け、制度等について理解を深めるように努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の概要、サービス内容・対応等を書面や口頭で十分に説明し、理解と同意を頂ける様に努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会時や電話等、お便りや写真等にて近況を報告している。その際、ご意見・ご要望等もお聞きしている。	ホームで生活していく上での要望が家族から寄せられ、その対応に努めています。苦情等はないとのことですが、言い出しにくいということも考慮し、意見の引き出し方に工夫されることを期待します。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の職員会議時に、運営や日々のケアに関する事等、それぞれが意見を言い合える場を設けている。また管理者は、月初めの管理者会議に出席し、その意見や提案が出来るような体制にある。さらに、職員の意見反映の為、代表者と個別の面談を行っている。	職員が意見を言い出しやすい環境であることから、さまざまな意見が出され、法人本部に伝わるシステムも構築されており、運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主にグループホーム連絡会を通じて会主催者の研修会に参加し交流する機会を持つようになっている。コロナ前は仙北市の多種研修会等、特に市内の研修会や会合に参加し、情報交換を行っていたが、現在はコロナウィルス感染防止の為、書面で参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人・家族、関係機関より話を聞き、情報収集を図り、対応できるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時の家族、本人の意向を聞きながら現在の状況等、情報収集を図り、対応できるように努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や現在の状態等、会話の中で色々教えて頂きながら、日常生活の中に馴染みの言葉や風景をはさみながら、家庭的な雰囲気の中で職員、他利用者同士の関係構築に努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況報告や要望、希望を伺い、一緒に考えたり悩んだりしながら、信頼関係を築き、家族・施設が本人を支えられるように努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの場所や友人との交流を家族の協力を得ながら、関係が途切れない様に支援に努めている。現在はコロナ禍の為、感染予防に努めながら、短時間での面会を行っている。	訪問理容の方とは馴染みの関係になっています。受診時に家族と会ったり、電話が家族、友人との関係継続のツールにもなっています。また、趣味や好きなことが入居してからも続けることができるように支援しています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や関係の把握に努め、座席の工夫をしたり、トラブル防止の為にリーダー的な存在の方の様子を見守り、状況に応じて必要あれば声掛けをしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方との関りの継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意見、希望を聞きながら、意向の把握に努め、その都度、相談を重ね、本人の意向に添えるように努めている。	夜勤の際や入浴時の会話、日常の様子を申し送りや連絡帳で伝えて職員間で共有しています。介護計画に反映できるよう、職員間で話し合っています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で使い慣れた家具等の配置で、居室を馴染みある環境にしたり、日常の会話の中からこれまでの生活の把握、また、情報の把握に努め、これからの生活に反映されるように努める。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	認知症の進行が著しい方について、家族への状況説明を行い、希望・今後の支援について要望等を聞いている。定期的に職員の出席でケアカンファレンス・モニタリングを行い、その意見を基に介護計画を作成し、支援している。	定期的にモニタリングを行い、6ヶ月或いは状況に応じて随時介護計画の見直しを行っており、職員が意見を出し合って作成しています。	記録の仕方を見直すことにより、効果的なモニタリングに繋がることを期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況を昼・夜と文字を色別にして記録している。身体チェック表や申し送り記録をファイルし、状況の把握に努め、職員同士での連絡帳も活用し、職員全員が把握できる体制をとっている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ここ数年はコロナ禍の為、地域との交流をする機会が難しかったが、入居者が気分転換出来る時間を含め、検討していきたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医について説明し、了解を得て受診時の体制を整えている。個々の状態や家族の希望に沿う医療機関を受診している方もいる。入居者の状態報告を行い、指示やアドバイスも頂いている。	入居時に確認の上協力医に変更していただいた方もおりますが、個々の希望に応じて受診できるよう支援しており、職員が通院介助しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調チェック、会話等を行っている。受診時に相談し、意見を伺う機会が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、家族との電話や面接をする機会を調整しながら状態の把握に努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の意見や職員の話し合い等を踏まえ、家族への状態報告時に状態の変化に応じてホームの対応や支援を説明している。今後も同様に取り組んでいきたい。	終末期の指針を策定し、希望や状態に応じ対応することとしています。現在対象者はありませんが、かかりつけ医によっては終末期の対応ができないこともあり、その点は課題となっています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を通して初期の対応に備えている。また、定期的に訓練、確認を行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、災害への意識を高めている。地域の方々への声掛けもを行い、一緒に参加頂いている。	避難訓練は火災を想定して実施しており、訓練後の反省会も行っています。飲食料を備えている他、発電機も装備しています。	直近の避難経験を今後活かすと共に、季節や時間帯、さまざまな災害に対応できるよう訓練と検証を重ねて職員の不安を払拭し、全員が安全に避難できる体制づくりを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の様子をうかがいながら、本人の思いの伝達や表現が出来る様に、言葉使いに注意し、声掛けや説明、周囲の雰囲気作りに配慮している。	言葉遣いや入浴時の同性介助への配慮等、状況に応じて本人を尊重した対応ができるように気をつけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れている際には、その都度さりげなく声掛けや介助をしている。ここ数年はコロナウィルスの状況に注意し、感染予防に努めながら、理容店の出張を利用し、ヘアカット・顔そり・毛染等、個人の希望に併せて行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所へ自由に入出入りできるようにしている。本人の希望がある時は、一緒に調理や盛り付け、片づけ等を行っている。	山菜の下ごしらえや後片付けを手伝っていたりして利用者の得意なことに力が活かされています。現状では外食を自粛していますが、花見弁当を発注して外食に代わる楽しみを味わっていただいています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員で、常に把握できるようチェック表を用いている。また、声掛けを行い摂取してもらえる様に努め、必要な時は介助している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導、確認を行っている。義歯洗浄の介助が必要な方には介助し、清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の習慣を把握し、さりげない声掛けや誘導に気を配っている。失禁後の交換時、オムツの交換時には、気持ちとプライバシーに十分配慮して介助を行っている。	機能維持、低下防止に向けてチェック表を活用した支援を行っています。日中にオムツからリハパンに移行できた方が、本人の自信に繋がり、表情にも変化がみられるようになりました。職員の達成感にも繋がっています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取の確認をし、飲食物の工夫を状況に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望に沿うように配慮している。自分だけの楽しい時間、リラックス出来る時間となるように努めている。体調によって控えた方がよいときには、声掛けの工夫をした対応に努めている。浴室について、車椅子の方でも対応できるように、リフトを使用し、入浴できるようにしている。利用者・介護者も共に負担の軽減に努めている。	入浴剤を使用して週2回の入浴を提供し、利用者の体調によっては足浴や清拭に代えて清潔が保てるように支援しています。車椅子の方がリフトを使用することで湯舟に浸かって入浴することができ、浴槽の位置も両側から介助できるように設置されていることで利用者、職員の安心にも繋がっています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中で適度な休息の促しや、夜間の安眠に繋がる適度な疲労感を感じられるように努めている。睡眠状態に変化や不穏な状態がみられてきた場合は、かかりつけ医等へ報告している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する説明を受けたりした記録を各個人のファイルに綴じ、確認している。受診記録に医師や看護師からの注意点や診断を確実に記入するようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意な事や好きなことを活かし、台所仕事、洗濯物干し、洗濯物たたみ等をしている。又、自室の掃除を一緒に行ったりしながら、生活の張りを感じられるように支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせ、最寄りの観光地へ出掛けたり、スーパーへの買い物へ職員と出掛けている。家族と相談しながら、一緒に出掛けられる機会を作るように努めている。また家族と共に、買い物や外食等に出掛けられる方もいる。ここ数年はコロナウィルス感染防止の為、外出は控えていたが、今年からは少しづつだが外出もして行けるよう、レクリエーションの企画をしている。	コロナ禍前のように頻回に外出することは難しいもののドライブに出かけることもあり、近いうちに紅葉狩りに出かける予定もあります。天候をみて散歩したり、玄関前で日光浴をしたりして戸外で過ごす機会をつくっている他、行きつけの理容院への外出希望にも応えています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族との話し合いの元、立て替え方式での買い物等をしている。		
43	(19)	○心地よい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったり、台所は解放され、調理の匂いや音のする空気感がある。空調設備の調整等で年中快適な温度で過ごす事が出来る。ホールも、季節ごとの飾りつけを行い、季節の変化を感じてもらっている。玄関等に消毒液やマスクを置き、また、定期的な換気や施設内のアルコール消毒を行い、感染防止に努めている。	建物の中央にあるホールは天井を高くして明かりを取り込み、開放感のある造りになっています。利用者はホールで過ごすことが多く、ソファを置いてどこでも寛げるようにしており、利用者同士の会話やカラオケを楽しんでいます。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室やホールのソファに座りながら、思い思いに過ごすことが出来るようにしている。ホールではテレビを観たり、利用者同士の会話を楽しまれている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の希望を取り入れ、馴染みの生活用品や、寝具。その他好みの物品を使用されている。何か欲しい物の希望があれば、ご家族に連絡し、対応している。	布団で休む方、身体状況や希望に合わせてベッドの位置を変える方、家族の写真を飾っている方等、生活環境は本人の意向を尊重してつくられています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体が空調設備で管理され、常に快適な温度、湿度を保っている。室内はバリアフリーで、手すりの設置、緊急の呼び出しボタンをトイレに設置し、安全を保っている。また、事務室、調理室、会議室、浴室、洗濯室、物置等は施設することができ、危険物(刃物、薬品、重要書類等)に利用者が誤って触れない様に配慮されている。		